

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



FUSO REPORT



# 第68期 中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで



平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。



代表取締役会長

藤岡 実佐子

代表取締役社長

杉田 真一

### Q 当上期の実績についてお聞かせください

当社グループは成長を維持するため、中期経営計画で掲げた各種施策を着実に実行しました。

新規顧客の開拓や既存顧客との関係強化、価格改定などの営業活動を強化したほか、原料資材の安定確保、京都事業所における新規製造設備の立ち上げ準備を行うなど、製造活動

の強化、安定化にも取り組みました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は347億5千6百万円(前年同期比28.1%増、76億2千1百万円増)となりました。また、営業利益は81億4千5百万円(同45.9%増、25億6千3百万円増)、経常利益は79億4千8百万円(同27.3%増、17億2百万円増)、親会社株主に帰属する中間純利益は56億8百万円(同30.8%増、13億2千1百万円増)の増収増益となりました。

### Q 果実酸類の販売状況はいかがでしょう？

国内外の販売は、計画通り順調に進捗しています。昨年はリンゴ酸・グルコン酸とも厳しい競争状態が続きましたが、欧米・アジアを中心に、ビジネスの奪回を進めております。販売物量と利益のバランスを図りながら拡販に努めた結果、利益率を確保しながらシェアも徐々に回復することができています。またアメリカの子会社では、グルコン酸類の設備増強も完了し、積極的な販売活動を始めております。

### Q 設備能力の増強が進んでいますが、稼働状況と、これからの需要状況についてお聞かせください。

数年間続いた半導体の調整局面も底をうち、現在、既存の京都事業所の超高純度コロイダルシリカ製造設備はフル稼働となっております。昨年4月に完成した鹿島事業所の新設備の認定作業も計画通り進んでおります。また、10月には京都事業所に新しい製造設備が完成しました。今後市場の拡大に伴いこれら新設備での製造が本格的に開始されます。

## Q 最後に株主の皆様へのメッセージを お願いいたします。

半導体市場の回復や為替動向(円安)を鑑み、当社は2024年度計画を8月に上方修正致しました。超高純度コロイダルシリカの製造設備増強計画も順調に進み、本格的な回復時に備

えて、万全の体制を整えております。今年度の計画達成に向け、全社一丸となって取り組んでおり、より強固な経営基盤を着実に築き上げていきたいと考えております。株主の皆様には引き続き、より一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくご申し上げます。



## 新事業部長に聞く ライフサイエンス事業部長 専務取締役 政氏 晴生

### Q 今後、売上に貢献 できる期待の製品 を紹介頂けますか？

「コート果実酸」を、この数年間で、次々と上市させています。リンゴ酸やクエン酸など果実酸の小さな粒を油脂の薄い皮膜でコーティングする製品です。安定性を向上させ、味をマスクングさせることもでき、様々な温度・条件下において、溶け出すタイミングのコントロールが可能になるので、特に食品での用途が見込まれております。上市から間もないですが、既にグミなど菓子類等での採用も進んでいます。様々なコート品の潜在市場は大きいので、お客様のニーズに寄り添った製品開発に努め、ラインナップも増やしていく予定です。



2030年までには、当社のライフサイエンス事業の売上の1割以上を目標に開発型営業を進めてまいります。

### Q 生活の中で使用されるような 身近な製品には何がありますか？

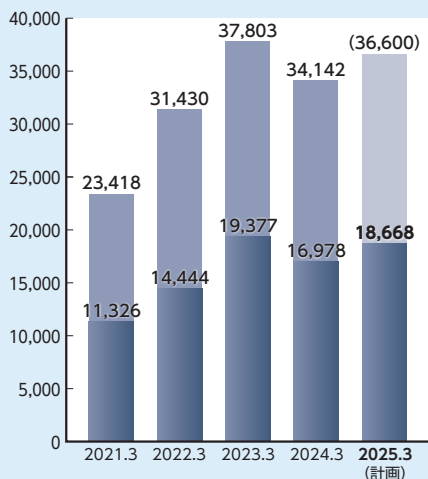
当社の果実酸はスポーツドリンクや炭酸飲料などの清涼飲料水や、シャーベット、アイスクリームなどの冷菓、グミ、キャンディー類やジャム、ソース類には酸味料として広く使用されています。またお弁当のおかずや総菜、麺類や漬物などの加工食品、豆腐の凝固剤からパックご飯に至るまで、あらゆる製品に使われています。洗剤や入浴剤にも用いられ、皆様の日常生活の中で当社製品は欠かせないものとなっています。





## ライフサイエンス事業

### 売上高 (単位:百万円)



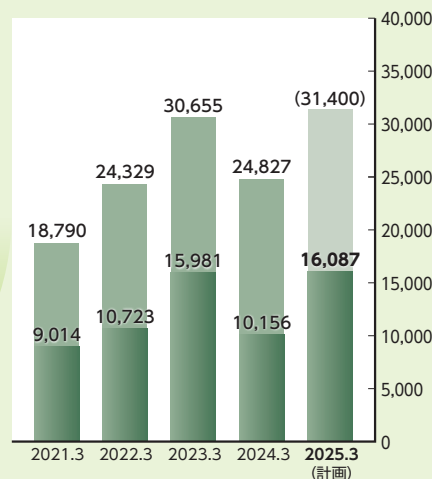
#### 売上高の比率(連結)

**53.7%**  
186億6千8百万円

**46.3%**  
160億8千7百万円

## 電子材料および機能性化学品事業

### 売上高 (単位:百万円)



ライフサイエンス事業の業績は、外部顧客に対する売上高が186億6千8百万円(前年同期比10.0%増、16億9千万円増)、営業利益は27億4千1百万円(同16.3%減、5億3千5百万円減)となりました。

国内市場では、食品用途の需要は引き続き堅調であり、工業用途や日用品用途での需要が回復しました。海外市場では、欧州・東南アジア向けのリンゴ酸や米国での有機酸で需要が回復したほか、中国を始めとするアジア地域でも堅調に推移しました。円安による在外子会社の売上高増加の効果も加わり、売上高は前中間連結会計期間を上回りました。営業利益は、継続して取り組んでいる販売価格の改定効果はあるものの、円安による輸入価格やエネルギー価格の上昇等のコストアップ要因や、定期修繕を例年より長期間実施したことによる生産量の減少の影響もあり、前中間連結会計期間を下回り増収減益となりました。



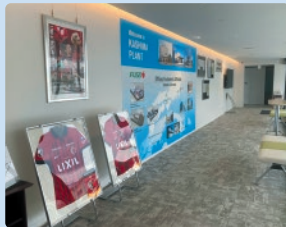
電子材料および機能性化学品事業の業績は、外部顧客に対する売上高が160億8千7百万円(前年同期比58.4%増、59億3千1百万円増)、営業利益は65億1千6百万円(同95.7%増、31億8千6百万円増)となりました。

半導体市場は、在庫調整は一巡し、AI用途を中心に需要は回復しました。半導体市場の回復により主力製品である超高純度コロイダルシリカの販売数量が増加したことに加え、コストアップ要因に対する販売価格改定や円安効果により、売上高は前中間連結会計期間を上回りました。営業利益は、鹿島事業所の新規製造設備の本稼働に伴う減価償却費や立ち上げに係る費用の増加によるコストアップの影響がありましたが、売上増加による影響が大きく、前中間連結会計期間を上回り増収増益となりました。

## TOPICS

## 1 鹿島事業所 新しい事務所棟が完成

鹿島事業所は、リンゴ酸製造設備に加え、昨年より超高純度コロイダルシリカ製造設備も稼働し、当社の一大生産拠点となっています。6月には、国内外のお客様をお迎えするにふさわしい事務所棟が完成しました。開放的な吹き抜けホールにある大きな窓からは自然光も差し込み、広々とした食堂や衛生的な浴室など厚生設備も完備し、社員の働きやすい環境が整いました。今後も、扶桑化学工業のフラッグシップ事業所として発展を続けていきます。



## TOPICS

## 2 青島扶桑精製加工有限公司 設立30周年

1994年に7月に設立した青島扶桑が今年で30周年となります。設立当初の街並みもすっかり変化し、青島扶桑と共に目覚ましい勢いで成長しています。



設立当初は、中国で生産されたクエン酸を精製し、品質に厳しい日本国内の飲料・食品メーカー向けに販売を開始いたしました。現在では、クエン酸以外の果実酸の生産拠点でもあり、電子材料分野におきましては超高純度コロイダルシリカの原料となる金属ケイ素の仕入れから粉砕までを担っております。



## TOPICS

3 京都事業所 超高純度コロイダルシリカ(Quartron<sup>®</sup>) 増設設備が完成

### 京都事業所 超高純度コロイダルシリカ(Quartron<sup>®</sup>) 増設設備が完成

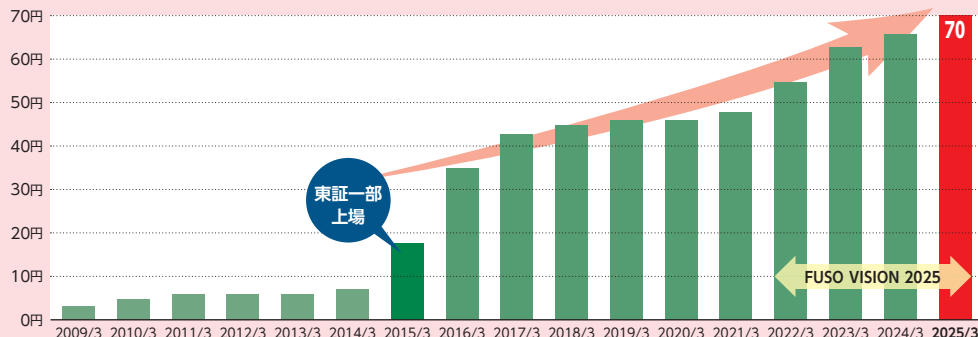
京都事業所の超高純度コロイダルシリカの増設設備が完成し、10月に竣工式を執り行いました。今回の京都事業所、そして来年7月完成予定の鹿島事業所の増設設備により、生産能力は2022年度比で1.5倍となります。



## TOPICS

## 4 累進配当の採用

当社は、2009年3月期から2025年3月期(予想)まで、16期連続配当の維持もしくは増配をしております。この実績を継続していくことを明確にし、株主様に対する安定的な配当を維持していく目的で累進配当の考え方を採用いたしました。





## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間連結会計 期間末 (2024年9月30日)	前連結会計 年度末 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	65,479	68,133
現金及び預金	31,915	31,471
受取手形及び売掛金	16,127	16,457
商品及び製品	12,285	13,292
仕掛品	691	730
原材料及び貯蔵品	3,432	3,393
その他	1,027	2,787
固定資産	69,414	65,606
有形固定資産	63,191	59,026
建物及び構築物(純額)	16,457	15,818
機械装置及び運搬具(純額)	13,313	15,090
土地	6,922	6,930
建設仮勘定	25,488	20,145
その他(純額)	1,009	1,042
無形固定資産	2,716	3,129
投資その他の資産	3,506	3,449
投資有価証券	715	885
長期前払費用	525	224
繰延税金資産	1,836	1,892
その他	429	446
資産合計	134,893	133,740

科 目	当中間連結会計 期間末 (2024年9月30日)	前連結会計 年度末 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	14,867	16,457
支払手形及び買掛金	3,238	2,359
1年内返済予定の長期借入金	1,100	—
未払金	2,313	1,992
設備関係未払金	4,569	9,281
未払法人税等	2,120	1,309
その他	1,526	1,514
固定負債	21,161	22,258
長期借入金	18,900	20,000
繰延税金負債	281	298
退職給付に係る負債	1,701	1,691
その他	278	267
負債合計	36,028	38,715
<b>純資産の部</b>		
株主資本	94,715	90,255
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	86,617	82,188
自己株式	△1,056	△1,087
その他の包括利益累計額	4,150	4,769
純資産合計	98,865	95,025
負債純資産合計	134,893	133,740

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間連結会計期間 (2024年4月 1日から 2024年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2023年4月 1日から 2023年9月30日まで)
売上高	34,756	27,135
売上原価	21,840	16,814
売上総利益	12,915	10,320
販売費及び一般管理費	4,770	4,739
営業利益	8,145	5,581
営業外収益	181	738
営業外費用	378	73
経常利益	7,948	6,245
特別利益	81	13
特別損失	21	51
税金等調整前中間純利益	8,008	6,207
法人税等	2,400	1,920
中間純利益	5,608	4,287
親会社株主に帰属する中間純利益	5,608	4,287

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間連結会計期間 (2024年4月 1日から 2024年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2023年4月 1日から 2023年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,566	119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,778	△15,054
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,168	18,831
現金及び現金同等物に係る換算差額	△331	781
現金及び現金同等物の増減額	287	4,678
現金及び現金同等物の期首残高	29,483	22,350
現金及び現金同等物の中間期末残高	29,771	27,029

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

### Point 1

(連結貸借対照表)

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11億5千3百万円増加し、1,348億9千3百万円となりました。これは主に、建設仮勘定が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ26億8千6百万円減少し、360億2千8百万円となりました。これは主に、設備関係未払金が減少したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ38億4千万円増加し、988億6千5百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

### Point 2

(連結損益計算書)

ライフサイエンス事業部全般に堅調で、ビタミン類の国内販売の好調に加え、海外向けリンゴ酸の販売増、ならびにアメリカ連結子会社PMP Fermentation Products Inc.でのグルコン酸類のシェア奪回もあり、売上高は大きく回復しています。また、電子材料および機能性化学品事業部では、超高純度コロイダルシリカの販売物量が半導体需要回復に伴い、大幅に伸びました。

両事業部での好調な販売を受け、操業度アップによる原価低減効果に円安によるプラス効果が加わり、当中間連結期間の営業利益は、前年比45.9%の大幅増となりました。これにより、当社の最重要経営指標 (KPI) である「償却前営業利益」は半期として過去最高の結果となりました。

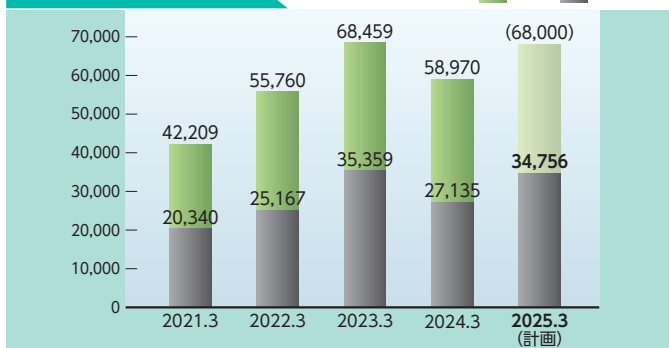
### Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物 (以下「資金」という。) は、税金等調整前中間純利益および減価償却費の発生により取得した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ2億8千7百万円増加し、297億7千1百万円となりました。



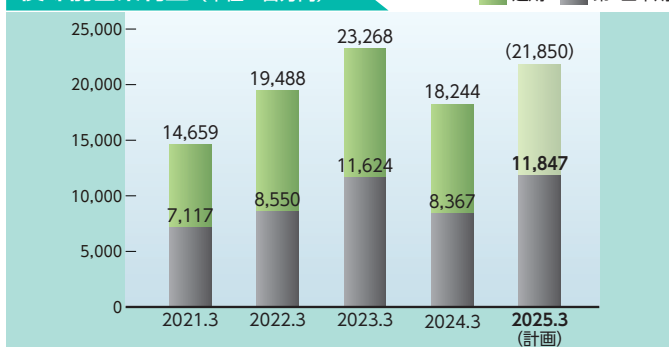
売上高 (単位: 百万円)



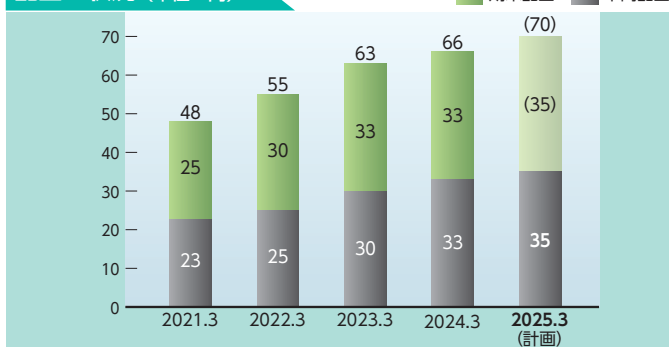
営業利益 (単位: 百万円)



償却前営業利益 (単位: 百万円)



配当の状況 (単位: 円)



第2四半期と通期における業績の推移

	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期 (計画)
売上高 (百万円)	20,340	42,209	25,167	55,760	35,359	68,459	27,135	58,970	34,756	68,000
営業利益 (百万円)	4,629	9,632	6,425	15,034	9,578	18,930	5,581	11,083	8,145	13,500
経常利益 (百万円)	4,505	9,746	6,482	15,509	10,757	19,740	6,245	11,883	7,948	13,700
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,086	6,808	4,488	10,890	7,516	14,129	4,287	8,343	5,608	9,150
償却前営業利益 (百万円)	7,117	14,659	8,550	19,488	11,624	23,268	8,367	18,244	11,847	21,850
1株当たり当期純利益 (円)	86.92	191.75	126.59	308.08	213.26	400.90	121.64	236.70	159.09	259.57



## ■株式の状況

(2024年9月30日現在)

●発行可能株式総数：95,000,000株

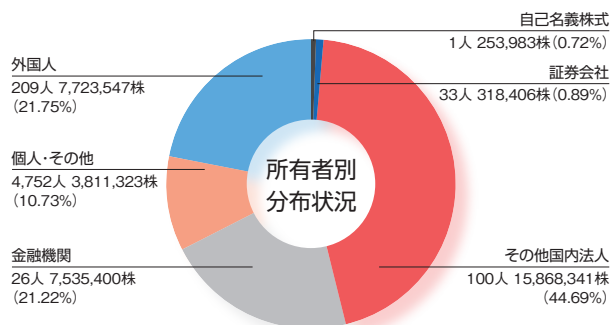
●発行済株式の総数：35,511,000株

(自己株式が 253,983 株含まれています。)

●株主数：5,121名

## ■株主の分布

(2024年9月30日現在)



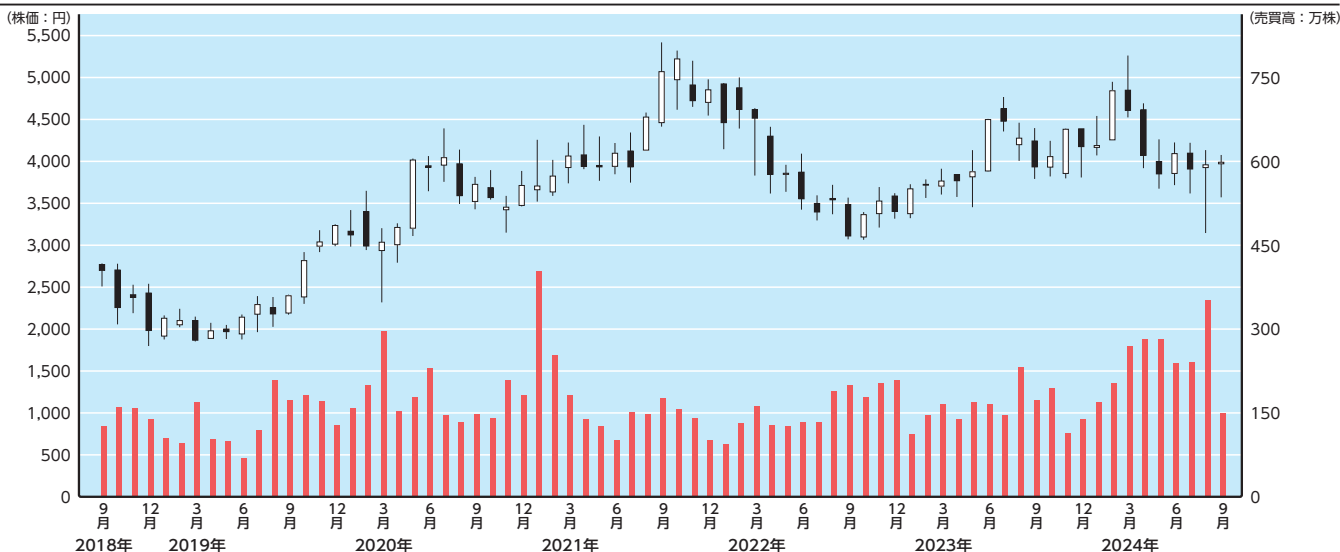
## ■大株主

(2024年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.87%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,105,200	8.81%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,474,900	7.02%
株式会社薫風舎	2,085,900	5.92%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
公益財団法人赤澤記念財団	1,000,000	2.84%
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	983,754	2.79%
JP MORGAN CHASE BANK 385174	717,500	2.04%

\*持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

## ■株価の推移





## 会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜三丁目5番29号  
(日本生命淀屋橋ビル 16階)  
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
  - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
  - 京都事業所
    - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
    - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
  - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
  - 神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番16号  
(神戸医療機器開発センター207)
  - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号  
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A209)
  - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
- 主要子会社
  - 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
  - PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
  - FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)



## 役員

(2024年9月30日現在)

- 名誉会長および取締役
  - フアウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
  - 代表取締役会長 藤岡 実佐子
  - 代表取締役社長 杉田 真一
  - 専務取締役 政氏 晴生  
(ライフサイエンス事業部長 兼 営業開発本部長)
  - 専務取締役 谷村 隆史  
(国際事業部長)
  - 常務取締役 藤岡 篤  
(企画開発室長 兼 経営企画部長)
  - 取締役 梶本 源樹  
(電子材料事業部長)
  - 取締役 百嶋 計 (社外・独立)
  - 取締役 監査等委員 平田 文明 (社外・独立)
  - 取締役 監査等委員 江黒 早耶香 (社外・独立)
  - 取締役 監査等委員 武内 敬 (社外・独立)
- 執行役員
  - 上席執行役員 伊藤 裕之  
(管理本部長)
  - 上席執行役員 宮本 典和  
(生産本部長 兼 京都生産部長 兼 大阪生産部長 兼 京都事業所長)
  - 執行役員 山川 恭弘  
(電子材料事業部 電子材料本部長)
  - 執行役員 田中 寛之  
(生産副本部長 兼 安全環境統括部長 兼 鹿島生産部長 兼 鹿島事業所長)
  - 執行役員 二宮 主税  
(中国扶桑グループ総代表 兼 青島扶桑精製加工有限公司 総経理  
兼 青島扶桑貿易有限公司 総経理 兼 扶桑化学(青島)有限公司 総経理)
  - 執行役員 三宅 雅彦  
(管理本部 副本部長 兼 総務部長)



■事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
■定時株主総会	毎年6月開催
■基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) ☎0120-782-031 [受付時間 9:00~17:00(土日祝日除く)] (インターネットホームページURL) <a href="https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/">https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。  
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

■公告の方法 電子公告とする(<https://fusokk.co.jp>)

■上場金融商品取引所 東証プライム

### 【利益配分に関する基本方針及び配当】

剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様に報いるため、累進配当の考え方を採用し、企業価値の向上につとめてまいります。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、1株につき35円とさせていただきます。期末配当金は1株当たり35円とさせていただきます。当期の年間配当金につきましては、1株につき70円を予定しています。

## Information



# JPX-NIKKEI 400

## 「JPX日経インデックス400」 構成銘柄選定



◀こちらからも詳細にアクセスできます

当社は、2024年度(2024年8月30日~2025年8月29日)の「JPX日経インデックス400」構成銘柄として選定されました。

「JPX日経インデックス400」は株式会社JPX総研及び、株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている株価指数で、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバ

ルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成されています。

2015年、東証1部(現:プライム市場)に上場以降、事業の拡大とガバナンスの強化に取り組んでまいりました。今後も多くの投資者の皆さまのご期待に応えられるよう、より一層の企業価値の向上に努めてまいります。

「JPX日経インデックス400」の詳細は、右記URLをご参照ください。 <https://www.jpx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/index.html>



**FUSO**  扶桑化学工業株式会社

<https://fusokk.co.jp>